



猫。好きな人はとことん好きで、嫌いな人は近づくだけで嫌。猫といえば、夏目漱石の「吾輩は猫である」。某日、野良猫を飼い始めた漱石はその猫を題材に、初めての作品を発表、そして大ヒットノ文

豪夏目漱石誕生のきっかけとなる。

ちなみに夫人は猫が大嫌い。しかし最後にはその猫の塚まで建てて供

猫事情



辻畑 隆子

養した。その漱石の弟子、内田百閒も「ノラヤ」で、68歳にして猫にハマった胸中を。キュンとくる。

上京すると、東京の住民の心温かい一面を目にする。昔から上野・谷中霊園には野良猫が多い。ゆったり昼寝して人を恐れない。聞くと、住人が費用を出

し合って避妊手術をし、また放してやるのか。

そして紀尾井町にある有名なホテル、広大な中庭の裏面で早朝そっと猫のイサやりに来る人を見つけた。聞くと、千代田区は、野良猫を犬猫病院に連れていくと無料で避妊手術をしてくれるという。デカくてのんびり

姿の猫を見ると、世知辛い大都会の喧騒を忘れ、心がホッと

大分・日出の自然郷を歩くと早朝を楽しむ野良や飼い猫をよく見掛ける。その途中、せつせと大型犬や小型犬の綱を引いた年配者と出会う。捨てられて処分寸前を引き取ったらしい。世間的には何の評価もされないと思うが、きつとワンたちの恩返しがありますようにと、その後ろ姿に祈る。

(彫刻家・日出町)